

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 4 年 2 月 18 日(2022.2.18)

【公開番号】特開 2020-156673(P2020-156673A)

【公開日】令和 2 年 10 月 1 日(2020.10.1)

【年通号数】公開・登録公報 2020-040

【出願番号】特願 2019-58124(P2019-58124)

【国際特許分類】

A 6 1 F 13/47(2006.01)

A 6 1 F 5/44(2006.01)

A 6 1 F 13/49(2006.01)

A 6 1 F 13/475(2006.01)

A 6 1 F 13/494(2006.01)

A 6 1 F 13/532(2006.01)

A 6 1 F 13/53(2006.01)

【F I】

A 6 1 F 13/47 3 0 0

A 6 1 F 5/44 H

A 6 1 F 13/49 1 0 0

A 6 1 F 13/475 1 1 2

A 6 1 F 13/494 1 1 0

A 6 1 F 13/532 2 0 0

A 6 1 F 13/53 2 0 0

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 2 月 9 日(2022.2.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

パッドタイプ使い捨ておむつ 200 は、股間部分 M を含む範囲に内蔵された吸収体 23 と、吸収体 23 の表側を覆う液透過性のトップシート 22 と、吸収体 23 の裏側を覆う液不透過性シート 21 とを有している。以下、各部の素材及び特徴部分について順に説明する。なお、以下の説明における不織布としては、部位や目的に応じて公知の不織布を適宜使用することができる。不織布の構成繊維としては、例えばポリエチレン又はポリプロピレン等のオレフィン系、ポリエステル系、ポリアミド系等の合成繊維（単成分繊維の他、芯鞘等の複合繊維も含む）の他、レーヨンやキュプラ等の再生繊維、綿等の天然繊維等、特に限定なく選択することができ、これらを混合して用いることもできる。不織布の柔軟性を高めるために、構成繊維を捲縮繊維とするのは好ましい。また、不織布の構成繊維は、親水性繊維（親水化剤により親水性となったものを含む）であっても、疎水性繊維若しくは撥水性繊維（撥水剤により撥水性となった撥水性繊維を含む）であってもよい。また、不織布は一般に繊維の長さや、シート形成方法、繊維結合方法、積層構造により、短繊維不織布、長繊維不織布、スパンボンド不織布、メルトブローン不織布、スパンレース不織布、サーマルボンド（エアスルー）不織布、ニードルパンチ不織布、ポイントボンド不織布、積層不織布（スパンボンド層間にメルトブローン層を挟んだ S M S 不織布、S M M S 不織布等）等に分類されるが、これらのどの不織布も用いることができる。

10

20

30

40

50